

KITA CLUB

キタ
クラブ

会長あいさつ



北辰会会長

稗田 泰崇

会員の皆様におかれましては、日頃より同窓会活動にご理解とご協力をいただき有難うございます。

また、熊本地震発生から9ヶ月が経ちましたが、被災されました皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地域が一日も早く復旧し、皆様に平穏な生活が戻りますよう心より願っております。

地震直後は母校も避難所となり、約3週間休校となりましたが、その間、ボランティア活動を行い避難所運営に関わる中で様々な経験をされた後輩達もあり、今回の同窓会新聞では、そんな後輩達の活躍を中心に、学校の被災状況などもお伝えしております。

また、今年から会員の皆様に年会費のご協力をお願いすることとなりました。

同窓会活動は、会員の交流はもちろんのこと、母校発展のため在校生に対する様々な支援を行うことも重要な目的の一つであります。

毎年実施しております在校生に対する「センター試験激励会」は、在校生にも好評で、ニュースや新聞でも取り上げられており、同窓会活動の一端が垣間見える事業となっております。

また、同窓会関東支部「関東北辰会」の設立準備も進んでおり、今後、同窓会活動が活発になることで増えていく支出に対し、いかに安定的に財源を確保していくか、という課題は同窓会運営の根幹に関わる問題であり、喫緊の課題とも言えます。

皆様におかれましては出費多大な折、誠に恐縮ですが、趣旨をご理解いただきますとともに、引き続き同窓会に対するご支援をよろしくお願いします。

最後になりましたが、会員の皆様方の益々のご健勝とご活躍をお祈り致します。

校長あいさつ



校長

土田 圭司

熊本北高等学校同窓会「北辰会」の皆様には、日頃から本校の教育活動にご支援ご協力いただき、まことにありがとうございます。

さて、平成28年度は熊本地震から始まりました。本校も被災を免れることはできず休校を余儀なくされました。幸い、被災の規模はそれほど大きくなかったと言え、今後も補修工事は必要ですが、休校明けからは通常に近い教育活動が展開できておりますことをまずご報告申し上げます。

次に学校の近況でございます。近年、本校は進路実績を安定的にあげるとともに、部活動の振興、文部科学省指定のSSH事業、グローバル化への対応等に力を入れております。1点目では、吹奏楽部の全国総文祭等での活躍、陸上部、テニス部、ダンス部、放送部、囲碁将棋同好会の全国大会への出場等々、目覚ましいものがあります。2点目では、生徒たちの立派な研究成果があがっておりますが、この春に第Ⅱ期の指定を受けて事業を継続できることは、本校にとって大変意義あることです。I期の蓄積を生かして事業の発展に努める所存です。3点目では、既に1年英語科のシンガポール・マレーシア修学旅行がありますが、今年度から2年普通科と理数科で台湾修学旅行を実施します。生徒たちの視野の拡大を意図してのことです。ヘルゲイト高校との交流やSSH海外研修もございます。

今後もこれらの活動等を通じて、学校の魅力をより高めていきたいと考えておりますので、北辰会の皆様には、本校の益々の発展のためご支援ご協力をよろしくお願ひいたします。

北辰会の皆様の益々のご発展ご健勝をお祈りしまして擱筆します。

「関東北辰会」設立状況報告

「関東北辰会」の設立準備に関わっています3期生の畠本幸声と申します。徐々にではありますが、設立に向けての準備が進んでおり、それに伴って検討すべき課題も見えてきました。

具体的には、執行部の組織体制をどうするか、予算の確保、理事会の開催などがあり、前例がない中、様々な検討を重ねています。

今後は、Facebookで集まった20人前後の人たちと、毎月ミーティングを開催し、意見交換をしながら詳細を詰めて行きたいと考えています。

活動が始まると、皆様からの支援なども必要になるかと思いまので、特に、関東近郊にお住まいの会員の皆様には、関心を持つ

以前お知らせしておりました同窓会の関東支部の設立状況についての報告です。

ていただき、関東支部へのご協力をよろしくお願いします。

【キタクラブ事務局より】

Facebookページ「関東北辰会」にて関東北辰会の会則などが確認できます。

また、会員登録用のURLもありますので、ぜひ会員登録をお願いします。

活発な活動が期待される「関東北辰会」ですが、次号以降の紙面でも、進捗状況などを会員の皆様にご紹介させていただきたいと思います。

在校生のボランティア活動報告

助け合いの心に触れて

私は、熊本地震の本震が起きた夜中に、家の近くの小学校に避難をしました。最初はまだ、物資も食べ物も届いていなかったけれど、だんだんと届いてくるにつれ、ボランティアの人手が足りないということで何度か呼び掛けがありました。私は最初、迷っていたけれど、中高生の参加もお願いしますと放送があり、何か自分にできることがあるならと思ったのでボランティアを始めました。

物資運び、ご飯配り、寝具配り……と活動内容は様々でした。物資が届くと私たち高校生が避難している人に配りにいきました。物資を渡すとともに嬉しそうに受け取ってくれて私も嬉しくなりま

ボランティアで知った人々の声

震災当時、自分の住む阿蘇でも甚大な被害を受けた。このため電気、水道、ガスも止まり、夜は車中泊という苦しい避難生活を過ごすことを余儀なくされた。そのような中、自分の周りにはたくさんの高齢者の方々がいらっしゃり小さな子どものお世話で家の片付けができない親御さんもいた。若者が足りない阿蘇では、動けるボランティアを必要としていた。自分がこの中の1人にならなければならぬという気持ちがボランティア活動を後押ししたのだ。

実際にボランティア活動を始めたのは本震から1週間後のことだった。初めは、たかが高校生に何ができるのだろうかと不安な気持ちにもなった。そこで自分は考えた。「やりたいこと」より「求められたこと」をやろうと。これは、熊本日日新聞の「災害ボランティアのポイント」にも掲載されていたものである。まず行ったのは、近所や避難所を訪ね、困っている人達の声を聞くことだった。多数の人が「苦しい」「いつ終わるのだろう」とため息をつきながら話していた。一番聞いてつらかったのは「もう帰る家がない。地震で家が倒れ、中の物も全て使えない」と涙ながらに言ったことだ。実際にその方の家に行ってみると、屋根がブルーシートで覆われ周りには思い出の写真などが落ちていた。しかし、その方は「話を聞いてくれてありがとう。少し気持ちが楽になりました」と言ってくれた。

大切にしたい言葉のキャッチボール

私は、物資を届けたり積極的にボランティアに参加する姉の姿を見て私も自分にできることをしたいと思いボランティアに参加することを決めました。

避難所に行くまでの道中、私は車中から益城の町を見てただ驚くばかりでした。ひどくうねった道路や崩壊した家を見て何も言葉になりませんでした。避難所ではロビーや廊下にダンボールを敷き、窮屈そうに過ごす人が多かったです。ご老人や小さな子供のいる家族、妊婦などそれぞれが不安やストレスを抱える中、私は優し

～地震後の北高の様子～



書類等散乱している事務室



壁がはがれた武道場

1-5 松本 麗奈

した。私たち一人の力でもたくさんの方々を笑顔にすることができ、避難者の方々の笑顔を見る度にボランティアをしてよかったと強く思いました。私はボランティア中、たくさんの方と出会いました。何時間もかけて他県から支援に来てくださっている方もたくさんいました。私たちはたくさんの方々に助けられているんだなとても感じました。そして、ひとりではけっして生きることはできないと改めて感じました。だから、これから学校生活でも、何事にもみんなで助け合っていきたいと強く思いました。

2-E 岡本 龍神

この時、声を聞くことの大切さに気づき、自分にできることがあるのだと知ることができたのである。それからは、積極的に話しかけ「何か必要な物はありませんか」とひたすら聞いて回り、必要であれば湧水をタンクに汲み、届けた。しかし、1回の水汲みで持てるのはせいぜい40リットルほどだった。疲労はすさまじく、3世帯に届けただけでも腕がパンパンになった。きついのは自分だけではないと心に言い聞かせ、1日に20世帯に水を配った。中途半端な気持ちでは絶対にできなかつたと今でも思う。ボランティアには、それなりの覚悟と、体力が必要だと身をもって学ぶことができた。

このように、ボランティアには、高校生でもできることがあるのだ。その中で何をするかは、一人一人の判断に任せると良い。一番大切なのは、困っている人たちを助けたいという気持ちではないだろうか。きれいごとではないのかと言う人もいるかもしれない。しかし、自分はそのような人にこそボランティアをして欲しいと思う。普段は気づけないことに気づけたり、新しい発見があるからだ。身をもって体験したからこそ言えることだと思う。年齢は関係ない。人のために動く機会は今しかない。間違いはない。ボランティアは自分を成長させ、相手を救う。これから、日本を担う若者のボランティアが増えることを僕は願っている。

3-4 中村 桃子

く声をかけることを心がけました。ほんの少しの会話や挨拶だったので、避難されている方々は笑顔で挨拶を返してくれたりお礼まで言ってくれる方もいて今まで嬉しくなり、改めて人とコミュニケーションをとることは大切だと感じました。

今後同じような大規模な地震は起きてほしくないですが、またボランティアに参加する機会があるのであれば今回のボランティアで感じたことを活かしていきます。



地盤沈下で段差ができた生徒昇降口

同窓会室の清掃作業を終えて

御存知ない方も多いと思いますが、学校の中には同窓会の部屋が存在します。

その部屋には、学校の御協力を得て、同窓会名簿などの書籍類、藤崎宮秋季例大祭で使う道具などを置かせていただいており、事務室を持たない同窓会として大変助かっていました。

しかし、熊本地震により、同窓会の部屋も書類等が散乱するなどの被害を受け、その片付けを行うため、4月18日に母校を訪ねました。

行ってみると、ほとんどの物が運び出された後で、捨てるも

上田 一壯（4期生）

のを選択して荷造りなどを行なう作業だけで済みました。

後で、事務室にお尋ねしたところ「卒業生の先生達が中心となって事前の運び出しを行なっていただいた」というお話を聞き、感謝の気持ちと同時に卒業生の絆を感じました。

後日、運び出した荷物を処分する際にも手伝って頂いた先生方、忙しい中無理をして来てくれた例大祭のメンバーなど、急なお願いにも関わらず快く御協力いただいたことに改めて感謝申し上げます。

今回の地震のような非常事態にこそ、卒業生の絆が重要なことを今回の片付けを通して改めて認識しました。

被災地熊本を思う。

熊の大震災、すぐに駆けつけたかったのだけど、いろいろな状況から、GWの4月29日、同期の浅野と車で帰ることになりました。

九州自動車道に入り、植木インターの通行止めも解除されていましたが、この辺りからブルーシートのかかった家が増え始め、被災を実感し始めました。

熊本インターに着いた時、通行のやぐらがなくなっていました。仮の精算機になっていたのも地震の大きさを物語っていました。

東バイパスにて、母校を目指して北バイパス方面へ。バイパス両側の店舗はほとんどのガラスが割れています。まるで映画かTVドラマのような光景です。まさか自分の郷里がこんな風になるなんて…二人とも自然と口数が少なくなっていました。

北高に着き、車を降り、初めて目にしたのは昇降口。地震のため、20cmくらいの段差ができている。給水塔の周りもボコボコ。校舎の給水塔側もひび割れと隙間が続いている。中庭にまわっても同様のひび割れ、段差、すき間。校舎がこれだけ動くって、一体どれだけ大きな地震だったのだろうか。想像がつかない。

実家の家の中はある程度片付いていた。大物が倒れたりとかなかったのと怪我人もいなかったのは不幸中の幸いだった。

夜通し運転してきたので疲れていた。2時間ほど仮眠を取ろうと横になったのだが、その間に来る余震。しかも下から突き上げるような縦揺れ。初めての経験。これは精神的にかなりヤバい。続くとトラウマになるな……

私は高校卒業後すぐに上京しているので、もう東京の方が長い。熊本にいた頃は、体感地震なんて年に1回あればいいほうだと記憶している。東京に出て、関東は地震が多いな、と思った。軽い体感地震は年に10回くらいはある。しかし、全てが横揺れだ。

正直、縦揺れが精神的にこんなにキツいとは思ってなかった。状況が許すのであれば、余震が収まるまで熊本を離れるほうがいい

畠本 幸声（3期生）

いと思った。

翌日は友人達と西原村へボランティア。現場で5~10人くらいのチームに分かれて被災者の家へ出向く。電柱がありえない角度に傾いている。塀の白壁は崩れ無残な姿に。家の中はひどい散乱の状態。落ちた屋根瓦を片付け、家主に聞きながら家具を外に出す。TVで見た東北地震のような光景だ。車で別の家屋へ移動。畠の段差が割れ、水が吹き出している。家屋によってはキレイにペシャンコになっている。まるで映画のセットのような光景が続いている。ありえない。信じたくない。しかし現実なのだ。2週間前に起きたばかりの事実なのだ。帰りは無意識にあまり外を見なかった。東京も縦揺れの大地震が来たらこうなってしまうのだろうか……

酒蔵の瑞鷹にも行った。赤酒の蔵の被害は想像を絶する状態であった。壁は落ち、タンクは傾き、建物も傾いている。この状況で、どう声をかけていいのか。

熊本城へ行ってみた。なんだ、これは……オレの記憶とは全く違う光景が広がっている……悠々とそびえ立つ、あの熊本城の姿はどこにもなかった。

街へ出てみた。壁の一面が全て落ちているビル。ペシャンコになった民家。割れたガラスが散乱している店舗。

正直、かなり打ちひしがれた状態で東京にもどった。我々は東京で何ができるのだろうか… なにをすべきなのだろうか。

いろいろ考えた結果、瑞鷹に支援するための募金活動を始めることにした。通常の募金活動ではなく、瑞鷹のお酒を飲みながら熊本について語り合う飲み会を開催して募金をするのである。

今年は7月と10月に開催し、合計で約20万の募金が出来た。次回は来年の2月予定。この活動を通して、瑞鷹や熊本のことをもっともっと知ってもらおう。皆が注目をしてくれるようにならね。



地震発生後避難場所となった体育館



落下物などの危険もあり立入禁止となった高架水槽付近



壁にヒビが入った特別教室棟

平成28年度 北辰会総会報告

平成28年6月18日土曜日、18時30分から平成28年度北辰会総会が熊本県民交流館パレアで開催されました。

当日はお忙しい中、土田校長先生も来賓としてご参加いただき、ご挨拶の中で、熊本地震に伴う校舎の被害状況、高校総体などでの在校生の活躍などのお話をいただきました。

また、総会の議事として、平成28年度事業計画や予算、平成27年度の決算などを審議しました。

審議の中で参加者から「同窓会の資産の推移」「周年事業のための積立金の積立方法」などの件について質疑、要望等があり、執行部よりそれぞれ回答がありました。

その後、執行部の組織強化のため、副会長に新たに1名加えて3名体制とし、不在であった事務局長職を1名選出しました。

今後、執行部に2人が入ることで、同窓会組織の活性化が大いに期待されるところです。

その後、報告事項として、会報誌「キタクラブ」の発行の件、藤

崎宮秋季例大祭の実行委員会などの各種報告があり、総会は無事終了しました。

終了後は場所を移し、新しく同窓会の仲間入りをされた31期生の歓迎会を開催し、年代を超えた交流を深めることができました。（歓迎会は、14期生岡田さんのお店「岡田屋」で開催しました）

なお、本年度から会員の皆様から年会費を徴収することとしました。

経緯については、6ページに説明させていただいておりますので、そちらをご確認いただき、1人でも多くの会員の皆様のご協力をよろしくお願いします。



新役員挨拶

新副会長 今別府隆宏

この度、副会長を仰せつかりました、11期卒の今別府隆宏と申します。これまで同窓会とほとんど関わりのない私でしたが、同窓生相互の縁をしっかりと紡いでいけるよう、会長をサポートしていく所存です。どうぞよろしくお願ひいたします。

新事務局長 田伏佐依

この度ご縁を頂き、事務局長を拝命致しました7期生の田伏佐依（たぶせよ：旧姓 相澤）と申します。北高を通じて出来たこの縁を大切に、皆さんと共に同窓会並びに母校を盛り上げていきたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

同窓会活動報告

センター試験激励会について

平成29年1月12日(木)母校体育館にてセンター試験激励会が開催されました。

この催しは「センター試験において受験生が良い結果が得られる」ように、学校行事に同窓会が協力している催しで、今回で4回目になります。

受験生にお渡しした激励品は、16期生の清水仁さん、31期生の五十嵐達哉さんなどが中心となり「お菓子の香梅」さんの協力を得て開発したクッキーで、学校の住所の「兎谷」と「難関を飛び越える」という意味でウサギを型押ししたものとなっています。

なお、当日はNHKや熊日などのマスコミの取材もあり、緊張の中にもどこか賑やかな激励会となりました。

同窓会入会式及び北辰賞授与式について

平成28年2月29日(月)、31期生の同窓会入会を祝う入会式及び在校時に優秀な成績を収めた卒業生を表彰する北辰賞授与式が開催されました。

入会式は、校長挨拶のあと稗田会長から31期生の皆さんに向け同窓会への入会歓迎の挨拶がありました。

また、入会式前には北辰賞授与式があり、卒業生の中から森下彩さんが受賞されました。

31期生の入会で会員数は約13,000人となりました。

部活動激励金授与について

平成28年7月8日(金)、母校で行われた平成28年度硬式野球部・吹奏楽部・全国高校総体・全国総文祭出場者激励会にお

いて、同窓会からも激励金の授与を行いました。

この活動は、全国大会・九州大会へ出場する個人、団体に対し、強化費・遠征費などの支援を目的として実施しており、当日は稗田会長、田伏事務局長、例大祭実行委員会「北辰会」の上田會長の3名が伺いました。

稗田会長からの激励の言葉に続き、各部の活躍を期待して激励金をお渡ししました。

- 陸上 (個人) 河津 真由さん、堤一志さん、田口 哲也さん、清水 茜さん
(団体) 清水 茜さん、恵口 美雨さん、春野 彩音さん、河津 真由さん
- 剣道 (個人) 坂本 海拓さん
- テニス (個人) 中山・中島ペア、板井・柳本ペア
- 水泳 (個人) 麻地 雅さん
- 将棋 (個人) 岩永 凌さん
- 放送 (個人) 市原 真歩さん、上田 優雅さん
(団体) 井上 美優さん、前田 天弥さん
- 吹奏楽 (団体) 80名
- ダンス (団体) 24名

今後とも、同窓会としてこのような支援活動を通じて在校生を側面的に応援していきたいと思いますので、会員の皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いします。

経済同友会メンバー紹介

社会人の集まりである「北辰会経済同友会」は現在193名（平成28年11月4日現在）のメンバーが集い、Facebook等で交流を深めています。各メンバーそれぞれの分野で活躍していますが、その活躍など個人にスポットを当てる新企画です。栄えある第1回を飾りますのは、経済同友会会长の橋本祐二さん（2期生）です。

Q. 現在のお仕事について教えてください。

アベックラーメンの五木食品のグループ会社である高森興産（荒尾）の統括事業部長という立場で経営全般を担当しています。会社はナポリタンなど麺類を製造しています。

経営全般に加えて、海外の販路開拓を行っており、年に数回、海外で営業活動を行っています。また、日頃から人材不足の状況ですので、荒尾、玉名方面で働きたい方がいらっしゃらぜひお声掛けください。特に英語ができる方、歓迎します！

Q. 経済同友会に入ったきっかけは。

同窓会の総会の際に、稗田会長（当時はオブザーバー参加）から、OB 同士のつながりをもつと何らかの形で広げられないか？という提案があり、その後 Facebook でのグループを立ち上げました。

Q. 活動（主に飲み会？）を通じて、役に立ったことや考え方などが変わった部分があれば。これまで年1回の総会ぐらいでしたが、それ

以上に Facebook 上でのつながりも増えたので、母校を思い出すことが増えましたね。大西前会長の市長選挙や地震の際も、そのネットワークが少しは役に立った気がします。仕事の面でもいろいろと融通しあったり、紹介したりということもあります。信頼関係がありますので、安心して仕事の紹介もできます。

Q. 北高在校中の思い出は。

2期生でしたので、1期生の先輩方と一緒に新しい校舎に入った最初の年代で、何もかもが新品だったことが思い出されます。木の香りがする校舎でした。また、英語科の1期生ということもあって、やたら英語が多い時間割でした。そのおかげで英語には不自由がなくなり、海外での仕事にも役立っています。

Q. まだ、社会に出ていない会員の皆様に、社会人として何かアドバイスがあれば。

「継続は力なり」ということだと思います。何かひとつでもいいのでずっと情熱を注げる何かを見

つけることをお勧めします。それが仕事に役立つものであればキャリアアップにつながるし、趣味であれば人生を豊かにしてくれるでしょう。私は英語とサックス（ジャズ）があるおかげで、いろんな経験をさせてもらっています。

Q. 今後の同窓会や経済同友会に期待することがあれば。

同じ学校で過ごした仲間というかけがえのない縁がありますので、ぜひそれをどんな形でもいいので発展させて行きたいですね。気軽なお友達もいいでしょうし、がっつりビジネスで組むということもあるでしょう。世代が違っても共通の話題として母校があれば、すぐに打ち解けられるというのが同窓会のよいところだと思います。伝統校とは違って、若い同窓会ですので、気軽に行事にも参加してほしいですね。

第1回目はいかがだったでしょうか。経済同友会のメンバーで、ぜひ紙面で紹介して欲しいという方がいらっしゃいましたら、自薦推薦を問いませんので、橋本会長にお知らせください。

なお、橋本会長からのご紹介で、次回は関東支部の畠本幸声さん（3期生）を紹介する予定です。

平成28年度 藤崎八幡宮例大祭への参加自粛のご報告



本年度は北辰會にとって15回目の奉納という節目の年でした。

しかしながら、4月に起こりました熊本地震の影響があり、役員、実行委員を中心

に話し合いを重ねた結果、本年度の奉納を自粛することと致しました。

話し合いで「こんな時だからこそ、祭りに参加して熊本を盛り上げるべきだ」といった意見や「まだまだ復興・復旧もまだならない時期に参加するはどうか」など様々な意見が出ましたが、最終的に自粛しようという結論に至りました。

奉納を楽しみにしていた皆様には大変申し訳ありませんでした。ただ、自粛したことは悪いことばかりでは無かったように思います。

本祭当日、私も隨行列から飾馬の奉納を久しぶりに見る側として楽しみましたが、普段は出る側ですので、自分たちがどう見られているのかという事がなかなか分かりませんが、他団体を見て勉強になることもあります、北辰會のメンバーもそれぞれに思うところがあるようでした。

思いがけず1年間の空白となりましたが、来年度は15期生が中心となって15回目の記念の奉納をしっかりと準備をして2年分楽しみたいと思っています。

これからも20回、30回と奉納出来る様、毎年同窓生が年齢を超えて集まれる場として、そして、歴史ある熊本の祭りを受け継ぐ1つの団体として北辰會一丸となって取り組んでいきますので、今後も皆様のご支援、ご協力、宜しくお願ひいたします。

北辰會 会長 上田 一壯（4期生）

この度、熊本地震で被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

平成29年度藤崎宮秋季例大祭、実行委員15期の古閑と申します。

本年度、北辰會はお祭りへの参加を見送る事となりましたが、来年は2年分の想いを込めて皆さんと盛り上がっていきたいと思いますので、御協力の程、よろしくお願い致します。



北辰會 実行委員 古閑 誠一（15期生）

同窓会からの重要なお知らせ

これまで北辰会では、同窓会への入会時（高校卒業時）にお一人当たり5千円の入会費をいただき、同窓会の活動経費に充ててまいりました。

活動費は、大同窓会や学校の周年事業への積立、在校生に対する支援（北辰賞授与、センター試験激励会、部活動激励金など）、同窓会のホームページ運営費、会報誌の印刷費および郵送費などが主な支出となっております。

入会費以外の収入がない中、同窓会活動を継続していくため、効果的な活動に重点化し

会議費用などの支出削減などにも取り組んできましたが、同窓会会員が1万3千人を超える、会報の郵送費などがかかる現状です。

今後も会員が増え続ける状況を踏まえ、その規模に見合った同窓会運営と今後の予算のあり方について、理事会で検討を重ねてきました。

そして、昨年の6月の総会にて、会員の皆さまから年会費をいただくことについてお詫びし、ご承認をいただいたところです。

なお、年会費については2千円を一口としております。

納付書を同封しておりますので、コンビニや郵便局などでご納付いただきますようお願いします。

出費多難な折、誠に申し訳ございませんが、会員の皆様には、同窓会活動と年会費徴収に関してご理解とご協力をよろしくお願いします。

熊本北高校同窓会「北辰会」平成27年度決算・平成28年度予算

収入の部			(単位：円)
科 目	平成27年度決算	平成28年度予算	摘要
入会費収入	1,775,000	3,500,000	入会費￥5,000／人
年会費収入	0	1,200,000	年会費／2,000×600人分を見込
雑収入	504	337	利息
積立金取崩収入	0	1,000,000	大同窓会開催費用として積立金取り崩し
前年度繰り越し金	3,499,049	1,380,663	
合 計	5,274,553	7,081,000	

支出の部			摘要
科 目	平成27年度決算	平成28年度予算	
一般管理運営費	405,649	490,000	会議費、卒業祝、紙上名刺交換会
大同窓会事業費	0	1,000,000	同窓会開催費用
広報事業費	2,254,651	1,770,000	会報発行・HP運営
特別事業費	58,250	250,000	同窓会支部設立準備
高校活動補助金	525,340	600,000	高校生の活動に関する補助金（平成22年より北辰賞、平成26年よりセンター試験激励会、同窓会入会時記念品）
40周年積立金支出	400,000	800,000	周年事業費への積立金（40万円／入会金徴収年度）
大同窓会積立金支出	250,000	500,000	大同窓会開催費への積立金（25万円／入会金徴収年度）
予備費	0	1,671,000	
合 計	3,893,890	7,081,000	

積立金		
	平成27年度決算	平成28年度予算
40周年積立金	1,600,000	2,400,000
大同窓会積立金	1,000,000	500,000
緊急用ストック	2,020,898	2,021,550
預金利息	652	650
合 計	4,621,550	4,922,200

残 高	平成27年度収入合計	平成27年度支出合計	平成27年度繰越金	平成27年度末資産合計
	5,274,553	3,893,890	1,380,663	6,002,213

編集後記

熊本地震は、熊本城など様々な場所に甚大な被害をもたらしました。

我が母校も被災してしまいましたが、他校に比べると被害は少なかったようです。

歴史ある高校では建物の被害が大きく、授業を一時的にテントで行ったことがニュースになっていました。通常、歴史が浅いことがプラスになることは少ないですが、今回、校舎や体育館が比較的新しく被害が少なく済んだことはプラスに作用したようです。

震災発生後に、益城町のある避難所の支援を行う機会がありました。避難所運営は同窓会の運営にどこか似ているなど感じたことがあります。

同じ地域で（同じ出身校で）、リーダーを決めて（役員を決めて）、それぞれ役割を全うし自主的に運営を行う（委員会等を組織し自主的に運営する）など、似ている点が多く、避難所で頑張っておられる被災者の方々と同窓会活動で頑張っている自分達と少しだけダブって見えたりもしました。

年齢が異なる人の集まりという点も似ていますが、大きく異なる点は避難所の人数は時とともに減っていますが、同窓会会員は増え続ける点です。

会員が増えるということは、今後、同窓会に求められる事も多種多様になっていくと思われますので、少しでも会員の皆様の期待に応えることができる同窓会を今後も目指していきたいと思います。 編集長兼北辰会副会長 福田 将史（2期生）

発行所

熊本北高同窓会 北辰会
熊本県熊本市北区兎谷3丁目5番1号

企画編集

KITA CLUB編集室